

成果の説明書

(氏名)石井清輝	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①これまでの「在台日本人」、及び台湾人に対するライフヒストリー調査のデータを整理し、あわせて収集してきた関連資料の整理を進めた。</p> <p>②①の作業を踏まえて、申請者が参加する科学研究費助成事業「文化的装置としての〈日本〉一戦後台湾における集合的記憶の社会的構成に関する研究」(代表:林初梅/大阪大学)の成果として、林初梅・所澤潤・石井清輝編『二つの時代を生きた台湾一言語・文化の相克と日本の残照』三元社、2021年、の編者の一人として編集作業を行い、また、序文「多元社会台湾の歴史的積層」、第8章「植民地同窓会における戦後日本の台湾記憶—台北・樺山小学校の事例から」を執筆した。</p> <p>③群馬県桐生市の重要伝統的建造物群保存地区及び桐生新町地区を中心に、所属ゼミ学生と調査活動を進めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>①台湾に関する研究として、「在台日本人」の1945年以後の台湾に関する記憶、及び、台湾人の45年以後の日本統治時代に関する記憶のあり様をテーマとした論文執筆を進めたい。</p> <p>②群馬県桐生市を対象として、所属ゼミ学生との共同調査・地域活動を継続し、研究報告書の指導、及び自身の論文の執筆を進める予定である。また、今後は主にHPを通して調査結果を発信し、学生の調査結果の社会還元活動をより強化することを目指したい。</p>	